

成果の説明書

(氏名)佐藤和宏	(学部)地域政策学部
1 重要事項	
<p>(1) 日本の居住保障史に関するもの</p> <p>①(単著)2024,「既存持家の改善からみる住宅資金の歴史的意義——住宅事情および政策の棲み分け」『戦後日本の貧困と社会保障——社会調査データの復元からみる家族』東京大学出版会。(12月)</p> <p>②(研究会報告),2025,「何が語られ、何が語られていないのか——ソーシャルニーズ報告書における住まい」二次分析研究会課題公募型研究成果報告会「戦後福祉国家成立期の福祉・教育・生活をめぐる調査データの二次分析」。(3月)</p> <p>(2)現在の供給・管理構造に関するもの</p> <p>①(科学研究費)「民間貸家経営における産業化と機能分化:家賃債務保証業を中心に」日本学術振興会 科学研究費補助金 若手研究 2023年4月 - 2026年3月</p> <p>②(研究会報告),2025,「民間貸家経営における産業化と機能分化——市場化とセーフティネット化との関連から」比較住宅都市研究会。(3月)</p> <p>(3)それ以外(一般的な媒体・一般読者に向けてのもの・登壇など)</p> <p>①(misc),2024,「大学、そして学ぶということなど」『建設政策』215:1。(5月)</p> <p>②(misc)山本由美・佐藤和宏・野中郁江,2024,「東京都政に何が起きているか——教育・住宅・財政面からの提案」『経済』345:71-86。(6月)</p> <p>③(misc),2024,「書評『居住福祉の諸相』」『居住福祉研究』36:110-112。(6月)</p> <p>④(misc),2024,「この1冊『社会的企業の日韓比較』」『週刊社会保障』3278:26。(7月)</p> <p>⑤(misc),2024,「この1冊『在宅育児手当の意義とあり方』」『週刊社会保障』3291:35。(11月)</p> <p>⑥(misc),2024,「書評『私たちはなぜ家を買うのか——後期近代における福祉国家の再編とハウジング』」『貧困研究』33:85-89。(12月)</p>	
2 その他の事項	
<p>(1)授業</p> <p>・地域政策学部にて、基礎演習、演習Ⅰ、演習Ⅱ、地域づくり論、地域づくりを学ぶ、社会保障論、公的扶助論、住宅政策論を担当している(2021年4月～)</p> <p>・地域政策研究科にて、社会保障特論を担当している(2025年4月～)</p> <p>(2)学会活動</p> <p>日本住宅会議 常任理事(2020年12月～)</p> <p>福祉社会学会 第11期・編集委員(2023年6月～)</p> <p>社会政策学会 広報委員会(2022年～)</p> <p>居住福祉学会 理事(2023年5月～)</p> <p>(3)社会貢献活動</p> <p>①特定非営利活動法人 すみださわやかネット理事(2024年5月～)</p> <p>②特定非営利活動法人 建設政策研究所 理事(2024年12月)</p>	

3 次年度以降の計画・抱負

①授業：講義において、レジュメおよび関連資料の作成・活用に関して、学生の意向を反映しながら学生の学びを主体的に促せるように努める。講義そのものについても学生の主体的学びを励ますものとなるように努める

②その他：

(a) セミナール活動の一環としてのフィールドワーク（毎年夏に実施）、地域科学研究所の活動など、地域に関わる活動・地域への貢献活動に対しても、今後、何かしらの形で具体化していきたいと思っている

(b) 特定非営利活動法人の活動を通じて、同じく研究や地域活動に取り組んでいきたい

③研究：

(a) 居住保障史研究に取り組む。博士論文で扱った民間借家市場の研究をさらに発展させ、博士論文の書籍化に努めるとともに、東京大学社会科学研究所二次分析研究会での共同研究も併せて、時間軸（近代～現代）および空間軸（国際比較）を意識した居住保障史の記述を行う。

(b) 同じく博士論文の高度経済成長期と比較する形で、現在の産業化された民間借家市場の供給・管理構造の解明を行う